

第 5 回 災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナーを開催しました (2017/4/19)

テーマ：「災害を生きる力の 8 因子」～その心理・脳科学研究からフィールド活用まで～
場所：東北大学医学部（宮城県仙台市）

4 月 19 日（水）に本学医学部 6 号館 1 階カンファレンス室にて、第 5 回災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナー（主催：災害科学国際研究所「災害と健康」ユニット）が開催されました。今回は第 5 回目の演者として、災害科学国際研究所人間・社会対応研究部門の杉浦元亮教授をお招きして、「災害を生きる力の 8 因子 ～その心理・脳科学研究からフィールド活用まで～」と題してご講演を頂きました。

世間では「災害を生きぬく力」ということがよく語られ、中央教育審議会の教育の目標のひとつとしても「生きる力」の育成ということが掲げられていますが、これまでのところ、この「生きる力」という概念は客観性・実証性に欠けるものであるため、杉浦先生の研究グループでは、まず、東日本大震災を生き延びた方々からの聞き取りを行い、その聞き取り内容を質的研究により分析した成果として「生きる力の 8 因子」を抽出し、この 8 因子を評価する質問紙を作成しました。セミナーでは 8 因子が抽出されるまでの経緯や「生きる力」の設問項目とこの質問紙を用いた生きる力の解析事例をご紹介頂きました。実験室での行動実験や、MRI を用いた脳活動計測実験によって、質問紙で計測した「生きる力」の諸要因に対応する脳内情報処理過程を明らかにする試みについても紹介がされました。また、ある程度長期にわたって変わらない特性としての「生きる力」だけでなく、介入などによって比較的短時間で変わる「生きる力」の側面を評価するために、短間隔計測用の「状態版」質問紙も開発されています。これら質問紙を教育現場で活用した実践例として、複数の中学校で行われた地域防災教育活動などの効果を、児童の「生きる力」プロフィール変化として評価した事例が紹介されました。今後これらの質問紙を、より多様な防災授業・避難訓練の現場で、効果評価に応用してゆくことを計画中のことです。災害医療チームの人材育成・ソーシャルサポートの現場などでも何らかの形で活かされる可能性について今後検討を行うこと等が話し合われました。



会場の様子



杉浦教授